

会長時評

東日本大震災被災地を視察

見習いたい創意工夫

高架橋に取り残された三陸鉄道北リアス線



自然大災害の実態と地域の再生・復興のあり方を考えるため、支援を兼ねて三陸の田野畑村を7月に訪れた。被災をした方々が創意工夫をして活動する姿は、観光客が伸び悩む三宅でも見習わなければならぬものであると感じた。

大手旅行社が企画する支援ツアーは、関心が高く毎回大勢の人々が参加している。バスガイドも地元の被災者が語られた。漁村の村は、まるで三池浜や沖ヶ平の高濃度地区を見ているようで、心が痛

現地の語り部の方と記念撮影

住民懇談会で「観光客が減少した原因は何か」の問いに観光産業課長が、「原因分析は出来ていない状況」（報告書7ページ）と答弁している。田野畑の若者の目の輝きを見ると三宅島でもダイバー・釣り客の民宿主や野鳥

村民関係者との協働を

さらに被災した村を案内するのは、津波で船を流された漁民や小舟の観光船の船頭等で、NPOを立ち上げ旅行社と提携し破壊された生活を立て直す姿に大いに励まされた。各被災地を訪れて感じたのは、リーダーが創意工夫して前に出るの

は大切だということだ。村民関係者との協働を行政も、単発イベントから村民関係者との協働復興策を見つけ出す努力が必要なのではないだろうか。

重要な夏の来島者数分析

三宅島観光協会調べ（10月15日現在）によると、東海汽船の下り・上り便を利用した今年の来島者数は、次の通りになっている。（カッコ内は平成23年）

除く

※空路による来島者は

7月	8月	9月	合計
4千276人 (3千879人)	6千43人 (6千236人)	3千531人 (3千558人)	1万3千850人 (1万3千673人)
前年プラス397人	マイナスイ93人	マイナスイ27人	プラス177人

島者数は、次の通りになっている。（カッコ内は平成23年）

事務局便り

○あおぞら市（先月7日）に足を運んで下さった皆様、ありがとうございました！

○第4回島市のお知らせ
日時：12月9日（日）
11:00～13:00

場所：坪田体育館

○忘年会のお知らせ
世話人会の忘年会を、12月15日（土）開催予定です。詳細は、決まり次第追ってご連絡します。

【三宅島ふるさとネット事務局】

郵便番号：173-0005

住所：板橋区仲宿 25-6

電話：03(3963)5678

FAX：03(3963)5697

担当：加藤

櫻田村政 初の住民懇談会

確認できた前向きな姿勢

櫻田村政が誕生して初めての住民懇談会。この中で村は懸案であった高濃度地区の指定解除や人工透析機の導入など5点について前向きな報告をした。それに対し島民からは熱心な質問や意見が寄せられ、島の復興や活性化に向け有意義なやり取りをすることができた貴重な機会となった。

村民100人と質疑応答

2月15日付で櫻田村政が発足して初の住民懇談会を開催した。

9月5、6、7日の午後7時から三か所で村民約100人が参加。

村の報告は次の5点。

①航空路線確保は、羽田間は困難で調布飛行場に、日3往復の方針に転換。調布、府中、三鷹市の合意が必要、調

整中。

②火山ガス条例。村長は、



人工透析機の導入が見込まれる村の診療所

防災対策など3つの質問を

ここで私の発言要旨とその課題について触れてみたい。

質問は次の3点。1点目は、「前村長が第五次総合計画の策定のためアンケート等を取り懇談会で意見聴取もしたが結果は」。

12月の定例議会では報告予定。「総合開発委員会」に諮っている。しかし委員の氏名等発表をしていないか不明だ。

2点目は、「村の三宅支庁（都）、政府への要望事項は。特に三宅支庁との連携は高濃度地区再生計画、産業復興等で協



空港待合室に設置されている海拔表示

力を求めなくてはならない。一部住民代表者のみでなく支庁との村民懇談会も要請すべきではないか」というもの。

3点目は、「防災対策は津波対策を強調しているが、火山ガス放出の原因と行方をどう見ているか」というもの。

噴火20年周期ではあと8年、今回では5年しかない。津波と火山対策が必要ではないか。そのためには、東京都に協力を求め火山・地震予知連など専門家と被災地、行政関係者等の「火山・地震・減災シンポジウム」等を開催して減災・防災対

策の準備が必要だと思うので検討してほしい。また、津波高表示文字を大きく出来ないか。（答弁は報告書参照）

広報の充実も要望

住民懇談会では、何点か意見も述べた。

「広報みやけ」では、イベント記事が一面を飾っているが、広報の役割としては如何なものか改善と検討を求めた。

広報は、行政の現況認識を高め、政策決定の過程を公報で知らせ、村民が自由に意見を反映できる機会をつくる村民参加型の村政を確立する貴重な手段でもある。

例えば、納税問題は？人工透析導入は？高濃度地区解除は？空路・船舶の将来は？各専門委員会のメンバーと進捗状況は？等々、村民はもっと知りたがっている。

櫻田村政には、発信力を高めるための工夫を求めたい。また住民懇談会は円卓討議方式で、内容はQ&Aで報告等を提案した。

あおぞら市で特産品販売 定着してきた物産店



今回も多くの人が訪れた三宅の物産店

ふるさとネットでは、10月7日の12時から神楽坂商店街で行われたあおぞら市に、三宅島の物産店を出店した。今回は実演販売を行わなかったため、訪れたお客さんから「天ぷらがなくて残念だ」という言葉が多く聞かれ、この物産店が多くの人たちに親しまれるようになってきていることがわかった。

くさやなど今回も

今回の販売品は、明日葉、里芋、かぼちゃ、くさや（青むろのみ）。今回は新たにかぼちゃが販売品に加わった。この中

で明日葉は、天候の影響により不作であったことと新芽の柔らかいうちに収穫したこともあり、例年より値段を上げての販売となった。

イベント開始時には小雨が降っており、訪れる人が少なかったものの、その後天候が回復すると、会場は徐々に通常の賑わいを取り戻していった。参加を重ねるうちにリピーターのお客さんも

増えており、「今回も来たわよ」と笑顔で声をかけてくださる方もいた。

また、島のことをあまり知らない方でも、購入時に島の現状や明日葉の調理法について熱心に質問する姿も見られた。中には、「島に観光に行きたいが、どのように行けばよいのか」という質問もあった。

新たに出張販売を

イベントも半ばとなった15時ころからは初の試みとして、路上販売を実

ネット協力者 小島梨沙さん

感じた出身者の「地元愛」

今回、ネット協力者として初めてあおぞら市で販売を担当した小島梨沙さんに感想を聞いた。

あおぞら市での物産店については、新報で見ていたこともあり、以前から興味がありました。今回初めて販売のお手伝いをさせていただいたことで、三宅島について学ぶ

施設。同会場に出店されていて持ち場を離れられず買いに来られない方への出張販売も行い、野菜やくさを購入してくださるなどたいへん好評であった。その後もネット協力者の呼び込みにより、多くのお客さんが足を止めていた。

また、今回のあおぞら市では野菜やくさの販売のみを行い、これまで行っていた明日葉の天ぷらやおこわなどの実演販売を行わなかった。そのためか、店頭で足を止め

ことができたとともに、たくさんの方々とお話しする機会もあり、とても有意義な時間を過ごすことができました。

特に、島出身の方が島の特産品を懐かしそうに手に取り購入されている姿を見た時には、地元愛の深さを感じました。私も里芋や明日葉を購入し食べてみました。島

てくれるお客さんの数が少なかった。「この前は天ぷらやってたよね」と声をかけてくるお客さんもち、実演販売を楽しみにしてくださっている方が多数いることがわかった。

また、くさやに関しては、購入に難色を示す理由として、「近所のこともあり、匂いが気になる」というものがあると同時に、「昔のものに比べ、臭いが弱くて残念だ」というツウの意見も聞かれた。

【お知らせ】

復活・13年ぶり第13回
三宅島産業祭くし出品
12月2日（日）10時予定
阿古体育館・駐車場



定期的に行われている世話人会

ふる
さとネットでは、定期的
に世話人会を開き活動
方針などを話し合っている。
9月15日の会議では訪問活動
も議題になり、一定の役割は
果たせたとして、新たな方
向性について議論さ
れた。

9月15日に世話人会
9月15日に巣鴨で行わ
れた世話人会で、あおぞ
ら市と訪問活動について
話し合われた。
①あおぞら市について
・明日葉は、天候の影響

訪問活動の検討等 本格的に

ふるさとネットの活動報告



整理が始まる名簿や活動記録

で不慣れなものと新芽のう
ちの柔らかいものを収穫
していることから、販売
価格を500円に設定。
・くさは、数量を減ら
して販売する。(とびう
おがあるかどうか、確認
する)
②訪問活動について
・新報の発送は、亡くなっ
ている方や帰島されてい
る方がいる関係で、今後

新報の発送名簿も更新

帰島から7年がたち、「慣れない地での自立を支える」ことや「交流の場を設ける」といった訪問活動の意義が達成されつつあることを受け、ふるさとネットでは名簿や活動記録の整理を行った。

訪問活動を開始

【ご寄付者名】

吉田信行様、高橋栄一様、M様、竹野内崇宏様、阪神高齢者障害者支援ネットワーク様、島市売上②、あおぞら市売上(7月1日～10月16日まで)
ありがとうございます。頂いた寄付金は、大切に使って参ります。大今後も、ご支援よろしくお願ひ致します。

した当初に比べると、帰島や家族との同居、地域コミュニティを確立した方などが出てきたことにより、在京者及び訪問活動の需要は減少傾向にあるようだ。
現在、訪問先をふるさとネット、酒井副会長、DTPAで分担して活動を行っている。このうちDTPAが担当するお宅では、買い物や掃除のお手伝いをするのがあったものの、最近ではご家族の援助があったり都合が合わなかったりするなどして、活動の機会が少なくなっている。そのため、ふるさとネットでは今後、ふれあいコールを重点的に行っていくよう検討している。また、訪問活動のあり

編集後記

10月のあおぞら市では、ふるさとネットの方々と一緒に物産店のお手伝いをさせていただきました。リピーターの方や島に興味を持って下さる方もいて、とても楽しくお話しをすることができました。
訪問活動やふれあいコールについて、私たちも方法やあり方について話し合ってきたと思います。
(DTPA一同)

方を見直すにあたり、新報の発送名簿も更新を行い見直していく。
これは最近、取材に応じてくださった協力者の方や新春の集いなどに参加してくださったマスコミ関係の方々への発送が増えている反面、在京者宛ての郵便に関しては宛先不明で戻ってくるものや高齢化で発送辞退を連絡してくるお宅が出てきていることによる。